

ニ ュ ー ス

計量言語学の国際会議

昨年5月 New York で第1回の会議が催された(学会誌 Vol. 7, No. 1, p. 37 参照)が、引き続き第2回の会議の要綱がつぎのように決定された。

日時: 1967年8月23~25日

場所: フランス Grenoble

Mr. Gentilhomme が Secretary, Prof. Vauquois が Coordinator をする。

参加費: \$ 10 か 50 N.F.(予稿集を含むが banquet は含まない)

論文の発表を希望する向きは 1967年2月末までにアブストラクトを提出する。選考を経て本論文は5月15日までに送付する。

日本では学会の機械翻訳研究委員会の和田委員長が連絡に当たることになっている。

電子協で、プログラム用言語 ALGOL, FORTRAN の JIS 原案説明会開催

電子協では、工技院が受託した電子計算機プログラム用言語の JIS 原案の完成にともない、5月9日東京の電々ビル講堂で、原案に対する意見聴取のため説明会を開催した。(参集者約 250 名) 説明者はつぎのとおり。

全般的説明 東京大学 森口繁一氏
ALGOL の JIS 原案について

東京大学 井上謙蔵氏
FORTRAN の JIS 原案について

立教大学 島内剛一氏
今回完成した JIS 原案は、ALGOL では言語が ISO の Full ALGOL を水準 7000, 入出力が Full I/O を水準 70 として、また、FORTRAN では ISO FORTRAN を JIS 化したものである。

ISO におけるプログラム用言語の検討は、TC 97/SC 5 において進めていて、ALGOL, FORTRAN については、すでに各国へ勧告をする段階である。

ISO で勧告予定のプログラム用言語 (*印は呼称未定)

1. ALGOL
(言語関係)

(入出力関係)

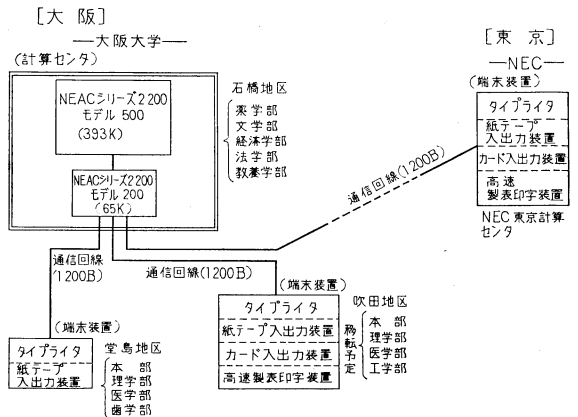
- (1) Full ALGOL | (1) Full I/O*
- (2) ECMA ALGOL+Recursivity*
- (3) ECMA ALGOL* | (2) Subset I/O*
- (4) Subset ALGOL

2. FORTRAN

- (1) FORTRAN
- (2) Intermediate FORTRAN
- (3) Basic FORTRAN

阪大に Time-Sharing 用 NEAC 2200/500 を設置

大阪大学では日本電気(株)から NEAC-シリーズ 2200 モデル 500 大型電子計算機システム一式を近く設置することになった。同システムは、現在堂島、石橋両地区の大学各部のみならず、近く吹田地区へ移転する学部とを MAC システム (Machine Aided Cognition) で結び、Time-Sharing 処理を行なうとするものである。システム構成はつぎのとおりである。



COBOL 1965 年版

かねてから予告されていた COBOL の最新版が出版され、すでに日本にも何冊か入っている。正式の表題は Department of Defense: COBOL, Edition 1965 であって Government Printing Office, Catalog Number D-1. 31, 965 として \$ 1.75 で入手できるはずである。

これは完結した版ではなく、プログラム例と文法チ

パートを追加する予定である。また内容的にも最終版でなく、保全手続きは今後もとられよう。書き方、体裁は従来のどの版よりも格段に明快、親切になっており、Preliminary Edition, 1964 や ASA のそれと比べても進んでいる。

内容の紹介を多分 COBOL 研究会がしてくれよう。翻訳作業も一部ですでに始められているが、どういふ形で出版できるかまったくわからない。

APT-3 加盟促進に IITRI より

Dr. Hori が来日

イリノイ工科大学の附属研究所 (IITRI) で APT Automatically Programmed Tools—工作機械の数値制御用の自動プログラム・システム) の開発を担当している Dr. Shizuo Hori が 11 月末に来日、12 月 1 日電子協オートメーション技術委員会の主催で、APT-3 (5 軸までの工作機のプログラムを作製できる) の一般的内容の説明会が開かれ、続いて 12 月 10 日同じく電子協において技術懇談会が開催されて、前

回説明会のより技術的詳細に関する補足および APT 共同利用委員会に加入するための事務的な方法などについて説明と質疑応答が行なわれた。

Dr. Hori によれば

(1) APT language は一般に公開する。

(2) 数値制御用の紙テープへの変換作業 (Compilation) は加盟員のみ許される。

(3) APT のシステム・プログラムは完成後 2 年間は加盟員のみで共同使用、その後は公開する。

(4) 特定の計算機 (IBM 7090/7094, RR 1107/1108, GE 635, CDC 3600, RCA SPECTRA 70 など) の場合のみ磁気テープで提供し、その他の場合はマニュアルのみ提供する。

現在、日本からは 2 社程度が加盟申請中で、5 月には IIT 理事会で加盟可否が決定される。IITRI としては、日本において当初加盟員数が少なくとも、将来の増加を見込んで、年内には日本にサブ・センタを開きたい意向のようで、この件も 5 月の理事会で合わせて検討されよう。

関 西 支 部

○特別研究会

6 月 29 日 (水) 午後 1 時から、大阪科学技術センターで下記のとおり大阪工業会コンピュータ研究会と共催した。参加者 69 名。

1. 開会のあいさつ 城 憲三 (支部長)
2. 信託投資過程のモデル 竹嶋徳明 (住友化学)
3. ライン・バランスのヒューリスティックな解法 西川仙之 (神戸商大)
4. Problem-Solving Machine 渡辺重明 (阪大)
5. 閉会のあいさつ 横山 保 (阪大)

雑 報

IFIP 便り

IFIP は 1965 年 5 月の Council Meeting で、President であった Mr. Auerbach が退任して、従来 Secretary であったスイスの Dr. A.P. Speiser を新たに President に選んだ。

これに伴って、英国のメンバ学会である the British Computer Society が新たに Secretary を担当することを決めた。

最近 British Computer Society はその事務所を移転したので、IFIP の事務所もこれとともに

23 Dorset Square

London, N.W. 1.

(電話 01-723-4034)

に定まった。

なお Secretary は Mr. J.G. Mackarness である。